

気候変動適応全国大会
神通川流域ぷらっとフォームの取組紹介

流域ぷらっとフォームで
つながる、いかす
流域の暮らし

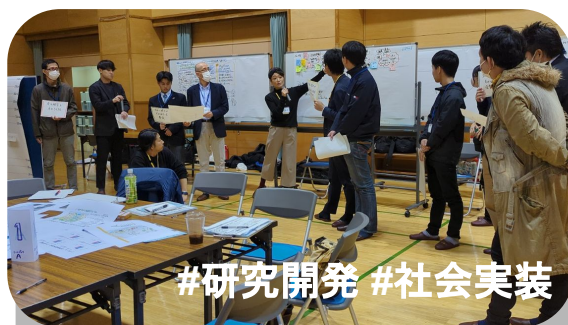


2024年3月22日
株式会社たがやす
鈴木 耕平

わたしたち(たがやす)について



#住民の声
集落の支援



#研究開発 #社会実装
流域治水ぷらっとフォーム構築



#組織風土醸成
企業のアイディエーション



#科学×行政
行政部署関連系の促進



#ボトムアップでつくる
大学のビジョンづくり



#市民の声 #2050 #研究開発
国際ワークショップの実施

富山の小さな声から見える

市民・行政・科学者の繋がりができるきっかけ作りのワークショップ



流域ツアーII



楽しくつながる次受防災3Dゲーム「氾濫した川を泳ごう!」



高山本線の旅・神通川IGO

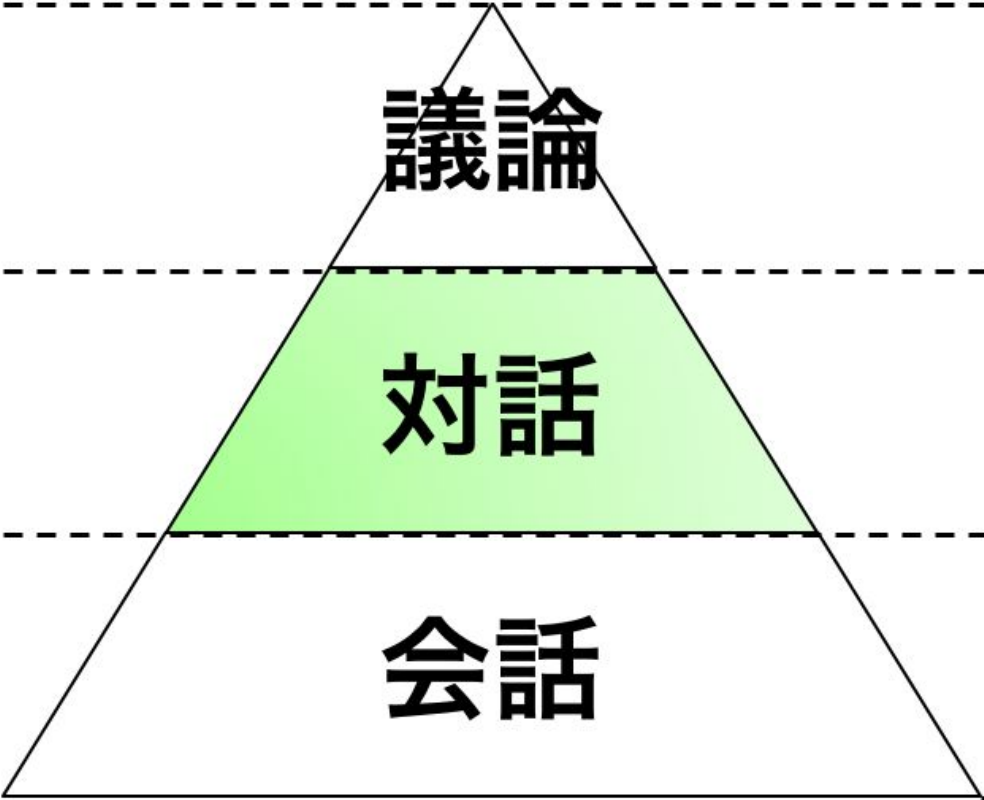


神通川魚釣り大作戦 / クルミで遊ぼう / 神通川交流サイト

対話:

答えがないことを決めていくために
正解ではなく納得解を

話し合いって大事。



議論

- 考え方をぶつけ合いながら、一つの答えを出していくもの（相手を打ち負かす）

対話

- 特定のトピックに関して、お互いの意見の違いを理解し合い、質問によって相手の知性を引き出す

会話

- 楽しむための言葉のやりとり（相手との関係性づくり）

話し合って大事。自分のこととして

それぞれの視点から流域をみると、

災害だけでなく、より良い暮らしのヒントも見えてくるかも？

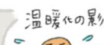


流域治水,て?

流域から氾濫域における流域に
あつちの関係者が協力して水害対策を行う考え方で



もともと「^監川の
神通」。
ここ30年近く「災害が」
起きていけいけ



科学的水



対策が必
ずです！
といても…



神通川って 危ないの?

治水って 何に?

住民の危機感言語化は まだまだ

県、市と

企業と

地域社会のみねさんが
どのような未来をついていきたいかによって

流域治水は変わってくる
(変えられる)



住民と

人口50% 資産75%

洪水氾濫警戒区域の中に!



自分たちの
田んぼは
どうなるの？

被害の面は分



使言語の共通化・定義の明確化



田んぼ
水たまり
できること・できないことは?

市街地に流しても大丈夫？

L1 洪水の対策で 本当に大丈夫?
 (計画規模)
 L2 洪水の対策は?
 (想定最大規模)

科学、工学的価値評価

あらゆるセクターで現状を共有する

開催の趣旨・経緯

あらゆる関係者の対話によって見てきたもの

- 流域治水とは何なのか？自分たちの住む地域で何気なく街中を流れる水について、大雨や洪水のリスクはどうなっているのか、あらゆる関係者が一緒になって水資源を治めることに共感した人たちが集まりました。
- 流域治水とは何か？自分たちでやるべきことは何か？やってみよう！といった観点で、専門家からの情報とステークホルダーの気になる質問を出し合いながら進みました。流域治水について共通認識を深めながら、個人の視点として感じることも、ステークホルダーの立場から感じることも、自分とは異なるステークホルダーの立場を聞いた時に感じたことを行ったり来たりしながら、対話を進めてきました。
- 対話を行う中でステークホルダーの皆さんから聞こえてきた声の一部をご紹介します。



神通川流域治水プロジェクトを進めるにあたり、2021年から2023年の間に「シナリオ創出フェーズ」「ソリューション創出フェーズ」の二つのフェーズを展開しています。本パンフレットは、令和3年度における事業報告となります。今後も継続していくプロジェクトとなりますので、興味・関心のある方がいましたら活動報告をウェブなどで発信していきますのでご期待いただきたいと思います。



流域ぶらっとフォーム神通川とは



神通川の流域でつながる

ユネスコの企画/シンポジウムのブース出展/
流域ツアー/ロールプレイ/高校生の探究授業とのコラボレーション



神通川の流域でつながる

立場を超えてつながるための情報発信



プレオープン中!

流域ぶらっとフォーム



<https://www.ryuuiqi-platform.com/>

互いの立場を話し合い課題共有



流域ツアー!!



楽しくつながる次受防災3Dゲーム「氾濫した川を泳ごう」



高山本線の旅・神通川GO



神通川魚釣り大作戦 / クルミで遊ぼう / 神通川交流サイト

運営体の形成

以下について、持続可能な形で実装できる運営体を形成する

- 1 流域の地域づくりに係る人材育成、会員育成
- 2 あらゆるステークホルダーとの対話を通じた地域課題解決支援
- 3 情報プラットフォームを活用した流域の地域づくりの普及啓発、活動促進
- 4 シンポジウムや会合による集まる場としてのプラットフォーム形成
- 5 その他当法人の目的を達成するために必要な事業

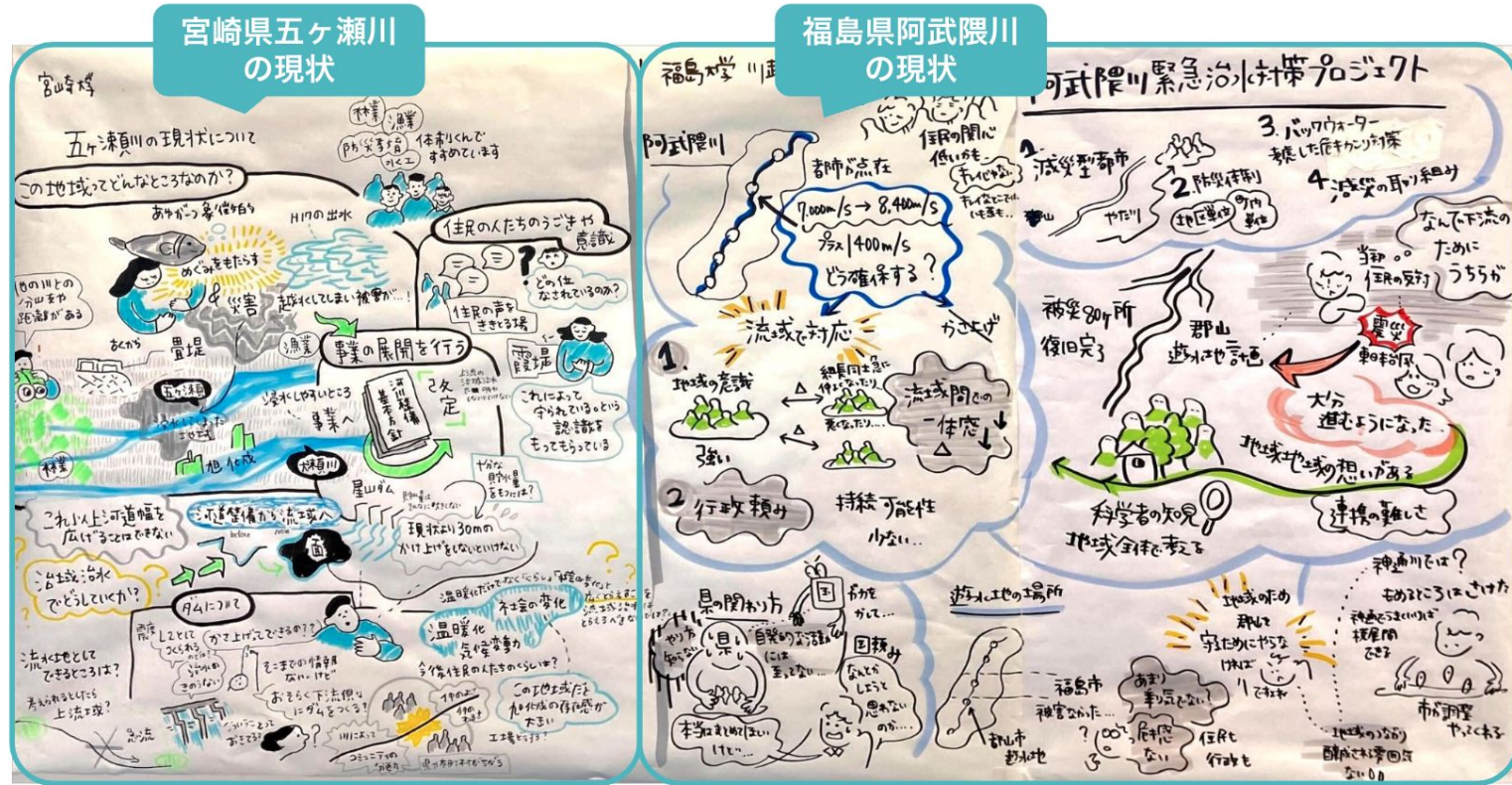
2023年7月シンポジウム

必要な科学的知見を適切に伝えながら、一般参加者が受け取りやすい工夫を行った。(直前に富山県内で発生した線状降水帯のニュースや平易な表現、双方向の参加、グラフィックレコーディングによる可視化での振り返り)



宮崎県、福島県の流域ともつながる

協働するための共通の進め方 ⇔ 地域状況に合わせたカスタマイズ



プロジェクト間でつながる

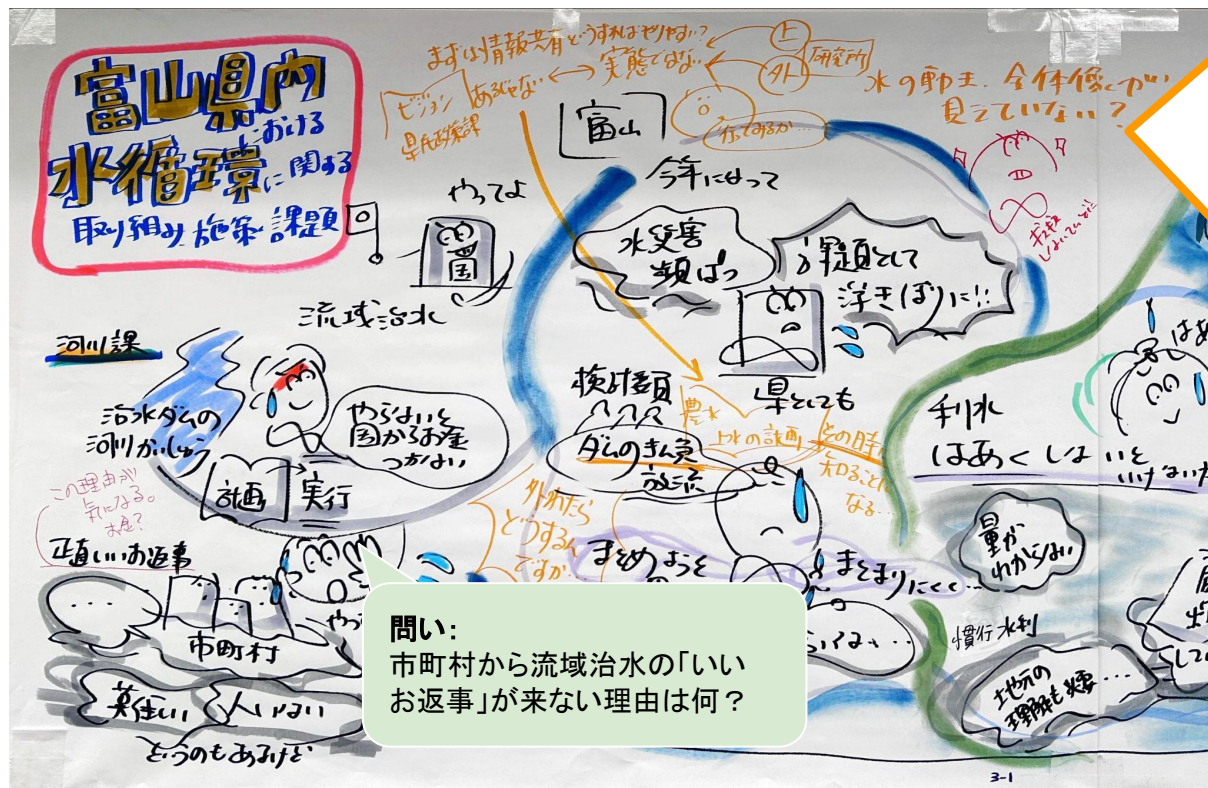


行政セクター間でつながる(利水/治水)



分野を跨いで繋がる

ディスカッションにて深掘りしたポイント及び追加で出てきた声を記載する。



気づき:

水の動き、全体像が見えていない？

問い:

情報共有をどうすればやりやすいか？

現状:

「水ビジョン」には実態は含まれていない

現状:

農水・上水の計画は、ダムの緊急放流などの緊急時に知ることになる

現状:

有事の際の判断は責任問題に
焦点が当たりやすい

分野を跨いで繋がる

科学者視点でのフィードバック

自分たちの役割が縦割りですごくうまくいったからこそ、全体像がお互いに見えていないことが**富山県の特徴**として見えてきた。

未来が見えない中で
新しい課題が出てきている。

事業化されたり、予算化されないとドライブしない現状のなかで、横連携でしか解決できない問題もある。

お互いを知ることは有益。
こういった議論をしやすくするためには？

知らない情報が知れて**実情**が見えてきたから、
 どういうアプローチをとるべきか考えられそう。

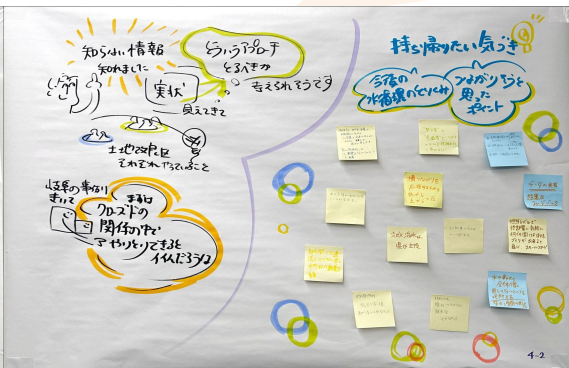
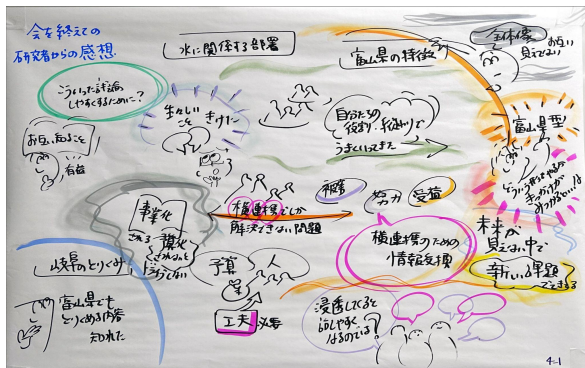
岐阜の事例：
富山県でも取り組める内容を知れた

生々しいことが聞けた

「富山県型」にむけて
 どういう形でやるかきっかけが見つかるといいな

被害や努力や受益など**横連携のための情報交換**が浸透してくると話しやすくなるのでは？

まずはクローズドの関係の中でやり取りできるといいんだろうな



小さな声から見える、つながる、流域の暮らし



ご清聴ありがとうございました！！

